

奈良市ゴミ焼却場を浄瑠璃寺南に建設しないことを求める署名

呼びかけ人のみなさん

お肩書きとお写真は署名を開始した2015年当時のものですが、そのまま掲載いたします。すでにご存命でない方もいらっしゃいます。署名開始からあまりにも長い年月が流れたことを思わずにはられません。長年にわたるお力添え、心より感謝いたします。



本山修験宗第四代管長
聖護院門跡五十二世門主
京都宗教者平和協議会理事長

宮城 泰年

里山もそこにある寺も自然環境を削りそして守っているものです。ことにこの地域は！立ち止まり検討し撤回するのが行政の仕事です。

作家 僧侶

瀬戸内 寂聴

はじめて、歩いて浄瑠璃寺を訪れた時の感激を忘れません。寺を包みこむように静かに息づいていた美しい環境にも感動したものです。それらを守り続けるのは日本人としてのつとめです。

総本山金剛峯寺執行長

添田 隆昭

高野山に伝わる声明の発祥の地である中川寺成身院の旧蹟の風光が保たれる様、関係の皆さまのご努力をお願い申し上げます。

大阪大学名誉教授
京都学園大学教授
日本中世史・古代中世仏教史

平 雅行

浄瑠璃寺の美しい景観と、中川寺跡は、日本の財産です。奈良市の計画はとても残念です。

京都橋大学文学部教授
日本中世史

細川 涼一

浄瑠璃寺や中川寺跡周辺は、堀辰雄の「浄瑠璃寺の春」からもうかがえるように、お寺の歴史的景観と周囲の自然が一体になってこそ意味のあるものです。ゴミ焼却場建設に反対します。

龍谷大学教授 仏教文化学
前龍谷ミュージアム館長

入澤 崇

文化に対する奈良市の姿勢が問われます。子孫から笑われる奈良市であってはなりません。なんとしても守るべし、浄瑠璃寺を、当尾の里を！

東京大学大学院教授
仏教学・東アジア仏教

蓑輪 顕量

当尾の里と浄瑠璃寺の自然環境を守ること、日本人の心を守ることだと思います。壊したらもう元には戻らないのが文化資産。昔の人の知恵と文化を見直す切っ掛けに。

山形大学教授
日本中世史 仏教史学

松尾 剛次

浄瑠璃寺は、その周辺環境とともに、セットで守られるべきです。

京都大学名誉教授
造園学

中村 一

浄瑠璃寺を取り巻く自然は、日本がこれ以上失ってはならないものの一つだと思います。微力ですがゴミ処理場侵入に反対したいと思います。

京都大学名誉教授
人間総合科学大学教授
哲学・応用倫理学

加藤 尚武

毎日歩きつづけているだけで美しい想い出となるような里を残して下さい。

龍谷大学教授
哲学・倫理学
里山学術センター研究員

丸山 徳次

健全な環境、美しい景観を後世に伝えていくことに責任を感じます。中川寺の遺跡破壊は将来に禍根を残すでしょう。

京都文教短期大学学長

安本 義正

歴史を語る貴重な中川寺跡の破壊を許してはいけません。美しい自然と歴史・文化の宝庫の中に生かされている私たちは、その自然と歴史・文化を後世に伝える責任があります。

同志社大学教授
教育史

沖田 行司

浄瑠璃寺付近は「古寺巡礼」に描かれているように日本人の原風景の一つでもあります。奈良市民だけの問題ではなく、日本の風景を愛する日本人全体の問題だと思います。

臨済宗僧侶 薩摩琵琶奏者

関川 鶴祐

20世紀を通じて、人間中心の開発、町づくりが行われ、貴重な自然や文化が失われて参りました。自然一里山一都市空間が一体となった社会の構築が求められ、かつ人類が誇る精神文化を正しく伝えてゆくことは、今日に生きる私達の仕事です。

京都感動案内社 代表役員
宣教師・仏像ソムリエ

小嶋 一郎

「守るは難く、壊すは易し。」千年の保全を、数十年の開発の犠牲にしようのは、誠にもって忍び難いことです。先人の守り伝えてきた日本の原風景を、開発という名の津波にさらすことは出来ません。

タレント
アーティスト

篠原 ともえ

浄瑠璃寺の吉祥天様が大好きです☆

お名前公表を承諾してくださった「賛同人」の皆さまも500名以上いらっしゃいます。ぜひ公式ウェブサイト (<https://save-joruriji.org/>) をご覧ください。



駅頭活動予定



呼びかけ人・賛同人



署名用紙ダウンロード



署名用紙配布回収場所

署名送付先

619 1135
京都府木津川市加茂町西小礼場40
浄瑠璃寺
「浄瑠璃寺と当尾の里をまもる会」行

浄瑠璃寺と当尾の里をまもる会

発起人：般若寺 前任職 工藤良任（代表）／浄瑠璃寺 住職 佐伯功勝／弥勒の道プロジェクト 遠藤千尋
事務局：〒619-1135 京都府木津川市加茂町西小礼場40 浄瑠璃寺
Tel:0774-76-2390 Fax:0774-76-2711 E-mail:campaign@save-joruriji.org <https://save-joruriji.org/>



建設候補地までの距離に合わせ現行焼却場の煙を浄瑠璃寺山門の写真に合成しました。

浄瑠璃寺と当尾の里をまもる会

SAVE-JORURIJJI.ORG

私たちは浄瑠璃寺近接地への奈良市ごみ焼却場移転に反対します。

奈良市のあたらしいゴミ焼却場を、浄瑠璃寺近接地に建設しないよう求める署名にご協力ください。下記サイトから署名用紙をダウンロードできます。
<https://save-joruriji.org/>



なぜ？

7年前に市長が断念したのに？

2024年11月、候補地再選定が決定

2017年7月、仲川奈良市長が浄瑠璃寺南へゴミ焼却場を移転させる計画を断念すると表明しました。ところがそれから7年後の2024年11月、ゴミ焼却場建設候補地を再選定することが決まりました。

一度除外された浄瑠璃寺南が委員の異議で復活

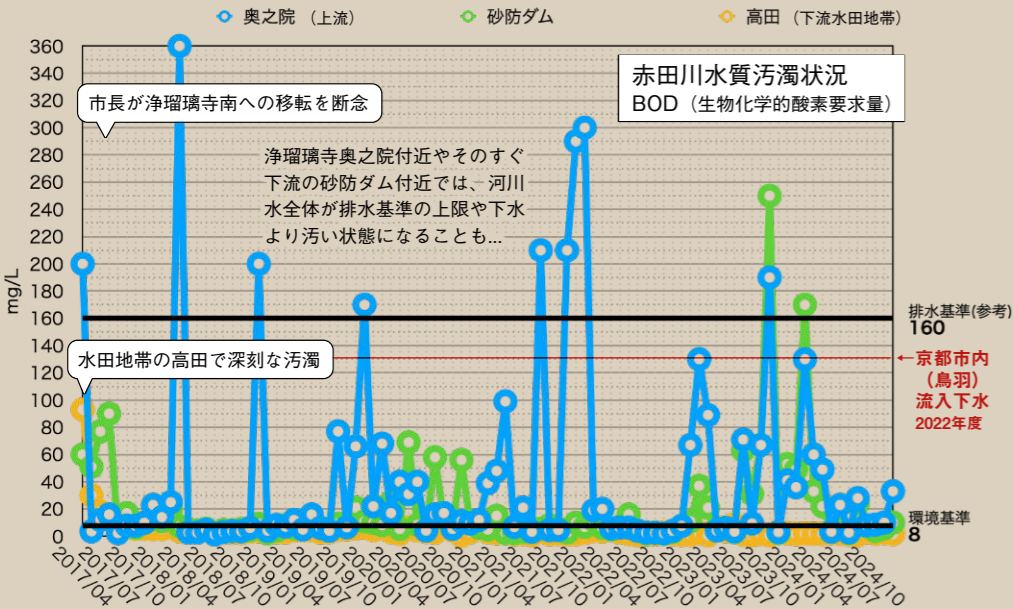
再選定の決定を受け奈良市クリーンセンター建設計画策定委員会では候補地の条件が議論され、収集運搬コストが現行の1.2倍以下であることが条件の一つとなりました。現行コストが年間20億円であることから、1.2倍でも年間4億円、30年間の稼働で120億円ものコスト増となり、それ以上のコスト増は市民感覚として許容できないとされたためです(第67回)。これらの条件から事務局が候補地を絞り込んだところ、浄瑠璃寺南のエリアは収集運搬コストが1.2倍以上であったため候補地から除外されました(第68回)。

ところがある委員が条件を緩和して浄瑠璃寺南のエリアを候補地に加えるよう強く主張し(第68回)、結局賛同多数でこれが認められてしまいました(第69回)。しかし浄瑠璃寺南の候補地が抱えるさまざまな問題(次頁)は今も何一つ解消されていません。



移転行き詰まり(5月3日)と断念(7月13日)を伝える2017年の奈良新聞。

下流農家を苦しめる、20年以上続く水質汚濁 赤田川を汚すのはもうやめて！

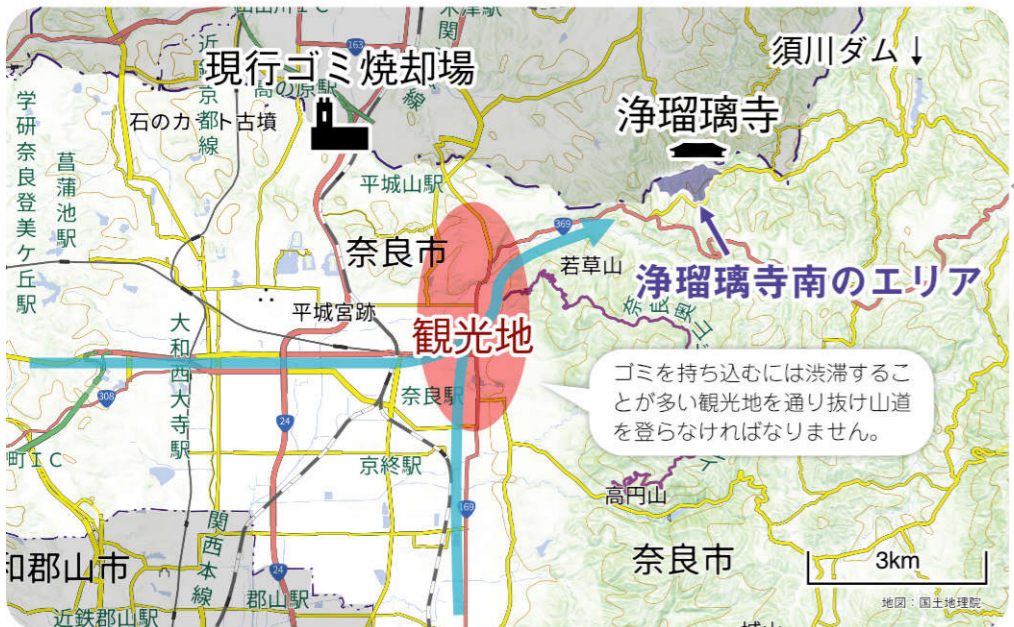


赤田川の府県境より下流のみ見られる著しい水質(有機)汚濁が、木津川市では20年以上問題となっています。とりわけ2017年には下流の水田地帯で農業被害が予想される深刻な汚濁となりました。**汚濁源は府県境付近にある**ことが木津

川市の調査でわかっています。もし浄瑠璃寺南にゴミ焼却場が建設されるとゴミ焼却場からの排水も京都側の赤田川に流されます。赤田川の水質汚濁はすでに限界を超えています。ゴミ焼却場の排水で赤田川をさらに汚すことはどうかやめてください。

市民生活にも様々な影響が...

- 人口の多い西部から遠くゴミの持ち込みが不便に。
- 奈良市東部から市街地へのほとんど唯一のアクセス道路が渋滞。
- 東部で道路渋滞を起こさないため現行ゴミ焼却場を中継基地に。
2017年に断念される直前まで、東部の渋滞対策として現行ゴミ焼却場にゴミを集め夜中に巨大トラックに積み替えて運ぶ計画が議論されていました。ランニングコストが高く無理のある計画です。
- 候補地内に導水トンネルがあり上水道の水源が汚染される恐れ。
地震や経年劣化でゴミを溜めるピットにヒビが入ると、須川ダムから緑ヶ丘浄水場に水を運ぶ地下トンネルにゴミから出た汚水が入りこみ、上水道の水源が汚染される恐れがあります。



ゴミを持ち込むには渋滞することが多い観光地を通り抜け山道を登らなければなりません。

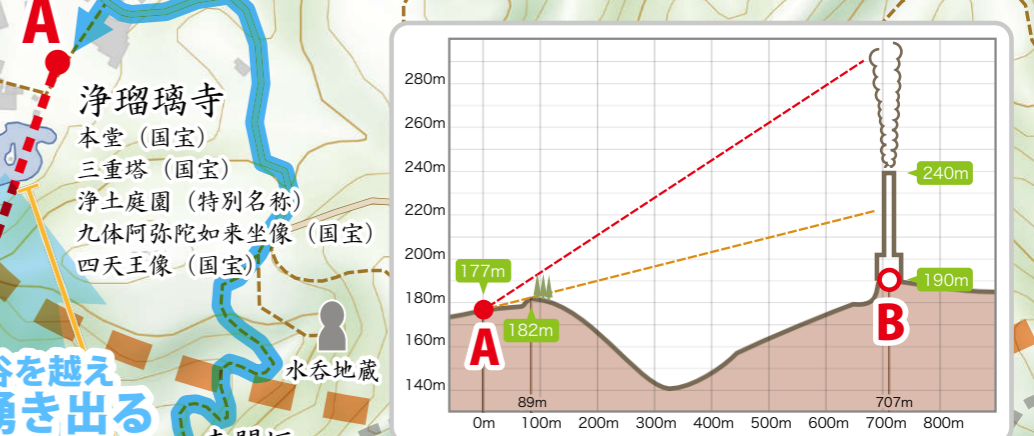


排水は京都側の赤田川へ



浄瑠璃寺奥之院
瑠璃不動磨崖仏

京都府 当尾磨崖仏文化財環境保全地区 わらい仏、弥勒の辻弥勒磨崖仏など、石仏が点在



おもて面は GoogleEarth の標高データに基づき、候補地の位置に合わせて現在のゴミ焼却場の白煙を合成した写真です。浄瑠璃寺からは、木立がなければ煙突まで見えることでしょう。もし100mクラスの煙突が立てば、木立の上に煙突が突き出してしまふ可能性があります。

候補地から浄瑠璃寺まで最短で380mしかありません。しかも浄瑠璃寺奥之院のすぐ上です。



実範上人開基の中川寺跡が造成で消滅してしまいます。

地図：国土地理院+OpenStreetMap

高野山に伝わる「南山進流声明」は、元は中川寺が本拠でした。「進流」の名は、実範上人の弟子で声明に優れていた宗観(大進上人)にちなみ、中川寺の声明を「大進上人流」(進流)と呼んだことに由来します。中川寺は声明発祥の地であったのです。中川寺は清酒の源流とされる「僧坊酒」でも知られ、この場所では酒造りも行われていました。

中川寺は明治に廃寺となりましたが、今も山中には四角く整地された区画(上図)がいくつも残り、かつての壮麗な大寺院を偲ばせています。また浄瑠璃寺南のエリアの東の谷にも鳴川山善根寺という寺院がありました。一帯には十念仏・地藏堂・光明院・南大門などの小字が残ります。この付近からも重要な遺構が発見される可能性が高いと考えられます。

南は浄瑠璃寺の元祖玄関口



実範上人御廟塔

実範(～1144年)は、藤原実頼の末流、藤原顕実の第四子として生まれ、興福寺で法相を、醍醐寺で真言を、比叡山横川で天台を学び、広く諸宗に出入りして研鑽に励みました。はじめ忍辱山円成寺にいましたが、仏に供える花を探して中ノ川に入ったとき、ただならぬ場所だと感じたため、天永三年(1112)ごろ、法相・真言・天台の道場としてこの地に中川寺を開きました。また実範は戒律の復興に勤め、唐招提寺を再興し、東大寺戒壇院受戒式を定めました。写真は2021年11月25日に営まれた高野山有志の皆さまによる法要の様子です。

宛名裏面
注意！ この署名は2015年開始の署名と同一です。過去に署名された方は署名できません。